

(2) 祭りと地域再生・活性化

若い世代の「ローカル志向」

- 最近の学生の傾向

“静岡を世界一住みやすい町にしたい”

“地元新潟の農業をさらに再生させたい”

“愛郷心を卒論のテーマにする”

海外に留学していた学生が地元や地域にUターン、Iターンetc

- ローカル志向は時代の流れ。“内向き”批判は的外れ。

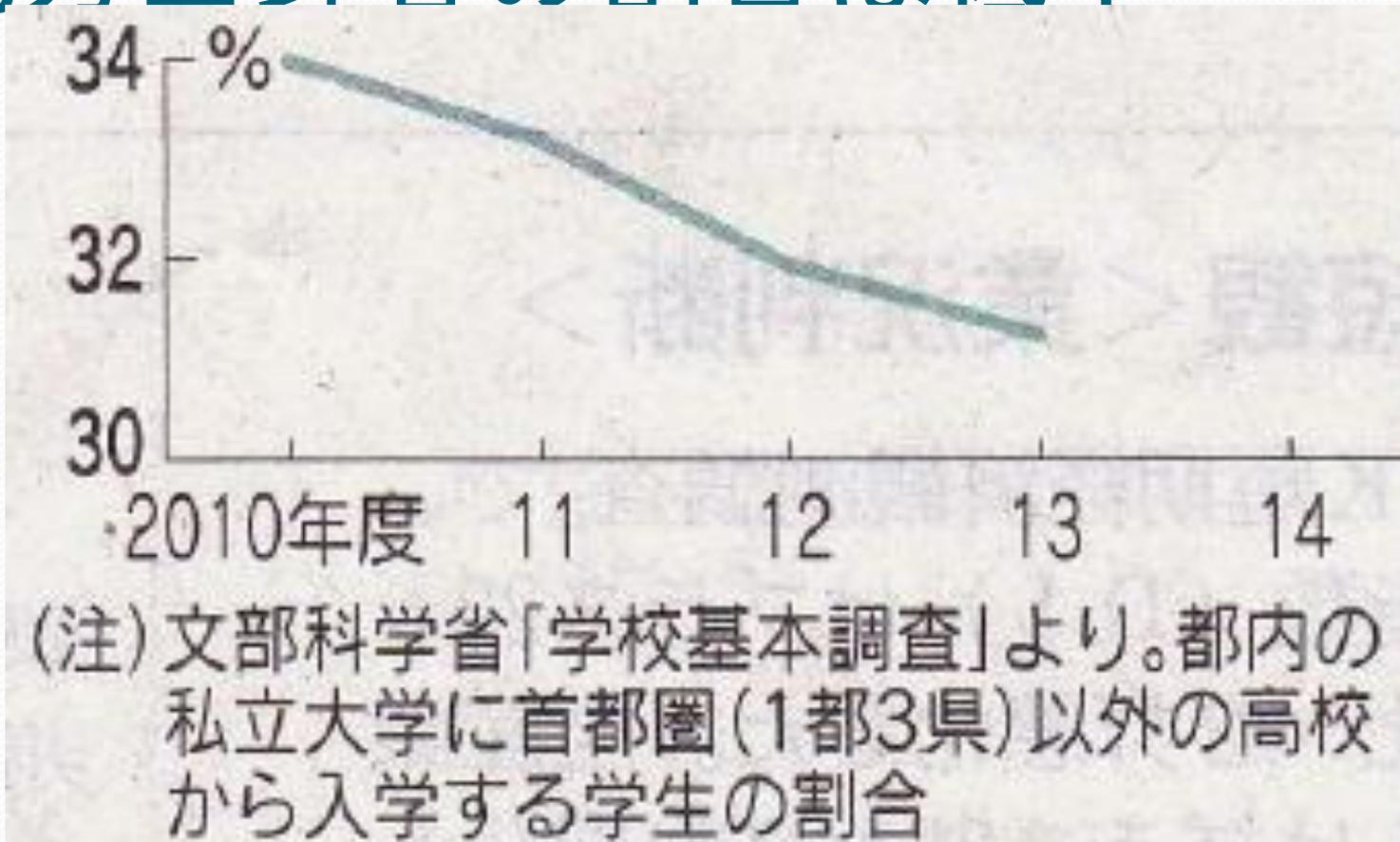
- むしろそうした方向を支援する政策が必要。

・・・“ローカル人材”の重要性。

若い世代のローカル志向（続き）

- リクルート進学総研調査（2013年）： 大学に進学した者のうち49%が大学進学にあたり「地元に残りたい」と考えて志望校を選んでおり、この数字は4年前に比べて10ポイント増加。
- 文部科学省の14年度調査：高校生の県外就職率は17.9%で、09年から4.0ポイント下落。
- 内閣府2007年調査（世界青少年意識調査。18～24歳の若者を対象）：今住む地域に永住したいと答えた人は43.5%と、98年の調査から10ポイント近く増加。

首都圏の私立大学に入学する 地方出身者の割合は低下



(日経新聞2014年10月25日)

最近のある学生の例

- もともとグローバルな問題に関心があり、1年間の予定でスウェーデンに留学していた女子の学生が、“自分は地元の活性化に関わっていききたい”という理由で、留学期間を半年に短縮して帰国。
- 彼女の出身地は茨城県の石岡市で、関東三大祭のひとつとも言われる“石岡の祭り”が盛んな場所。→この祭りの存在こそがその学生の地元に対する愛着の大きな部分を占めていたという。
- ちなみに「祭りが盛んな地域ほど若者が定着したりUターンする傾向が高い」という指摘あり。

秩父・荒川プロジェクト



秩父八景の一つ Healing Night
第2回 秩父華厳の瀧
ヒーリングナイト
日時:平成27年11月20日(金)~23日(月・祝)PM5:00~PM9:00

秩父華厳の瀧 ライトアップ(4日間)

清らかな聖水が力強く流れる「秩父華厳の瀧」。
ライトアップされた滝から流れるマイナスイオンと錦秋の紅葉の彩りが、
貴方の心を癒してくれるでしょう。

ジオパーク秩父

⇒秩父華厳の滝のメランジュ(ジオサイト)
落差約13mの崖(赤チャート)を直接的に流れ落ちる美しい滝です。
チャートとは、放射虫というケイ酸の成分でできた殻をもつプランクトンの遺骸が、深海底に堆積して生成したものです。この地層は「秩父帯」と呼ばれ、約2億年~15億年前の中生代ジュラ紀にプレートによって運ばれてきたものです。

小水力発電実験

日本には使われていない水力ポテンシャルがたくさん眠っています。環境に優しい持続可能な社会の実現に向けて、小さな水力発電の実験を行います。地域に眠る小水力発電スポットを一緒に探してみませんか？

同時開催イベント

雅楽の夕べ
11月21日(土)PM6:00~7:00
秩父雅楽会の協力により、三管(笙・箏・篳篥)の奉納演奏を行います。秋の紅葉を愛でながら、雅楽の調べをお楽しみ下さい。

日野澤大神社神楽(皆野町民俗文化財)の夕べ
11月22日(日)・23日(月・祝)PM6:00~7:00
日野沢神楽団は、秩父神社の祭礼に神楽を奉納するために、明治14年に日野沢太々協会として発足。現在は3月30日と10月14日・15日の両日、地元の日野澤大神社の祭礼に神楽を奉納しています。その内容は古事神話を題材にした神代神楽で、江戸神楽とは異なる装束を示すものと云われています。

主催:皆野町観光協会・皆野町
共催:一般社団法人秩守の森コミュニティ推進協議会
協力:東京都立産業技術高等専門学校・埼玉県立秩父農工科学高等学校・日野澤大神社
秩父華厳会・日野沢の自然を愛する会・日野沢婦人会・華厳の滝茶室

平成27年度 環境省選定「地域における草の根活動支援事業」

●秩父は秩父神社の夜祭り等でも知られる。

●秩父地域と東京都荒川区は荒川の上流・下流という関係。

●荒川区の産業技術高専の生徒の参加協力を得て、秩父地域の流域に小水力発電を導入。

秩父華巖の滝 ヒーリングナイト



今後の研究課題

- 若者のUターンやローカル志向と「祭り」との関係性についての客観的分析。
- 地域再生・活性化に関する、(従来型の)経済的・産業論的アプローチと、文化的・歴史的・風土的アプローチの接合。

おわりに：地球倫理と 鎮守の森

「幸福」について考える時代とは

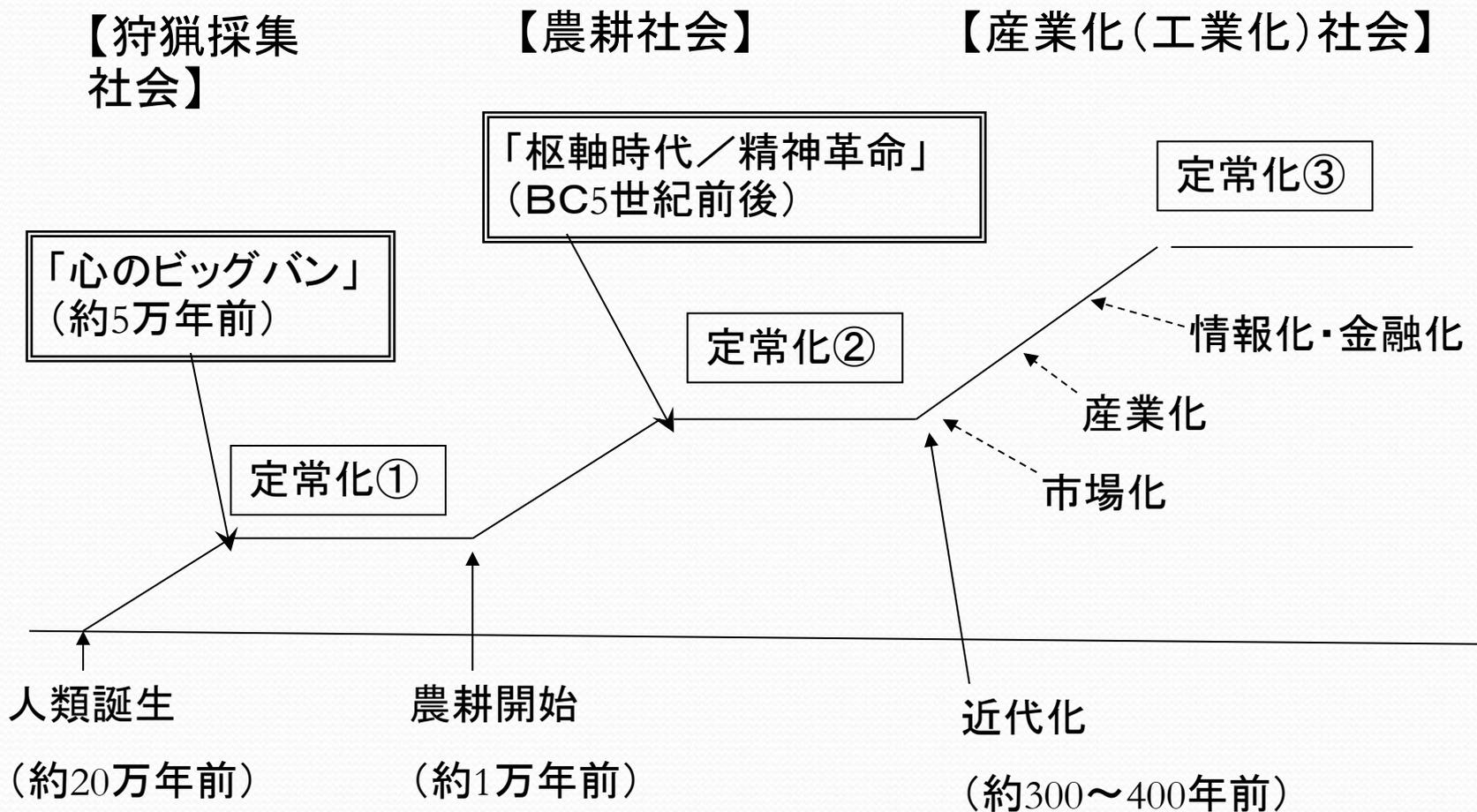
- 現在、「幸福」研究や「GDPに代わる指標」への関心が高まっているが、人間の歴史を大きく振り返ると、人々がとりわけ「幸福」について考えた時代がもう一つ浮かび上がる。
→ 紀元前5世紀前後の「枢軸時代」(精神革命)。
- この時代、地球上の各地において、普遍的な原理を志向する思想が”同時多発的”に生成。しかもそれらはいずれも何らかの形で人間にとっての「幸福」の意味を追求。
 - ギリシャ： ex. アリストテレス 幸福 = よく生きること
 - 仏教(インド)： 慈悲、ニルヴァーナ(涅槃)
 - 儒教など(中国)： 徳、仁など
 - ユダヤ～キリスト教： 愛

「幸福」について考える時代とは(続き)

- 枢軸時代は、農業文明の技術パラダイムが飽和し、環境破壊(森林伐採、土壌侵食等)などの**資源的・環境的限界に直面していた時期**。・・・近年の環境史研究
 - 物質的生産の量的拡大から、文化的発展へ。
 - 「幸福」への問いと関心
- 一方、**現在という時代**は、ここ200年強続いた産業文明のパラダイムが飽和しつつある時代。→その意味で**枢軸時代と類似した時代状況**にあるのではないか。
- 単なる物質的生産の拡大ではない、**「幸福」の意味や新たな価値原理**を考える時代。

人類史における 拡大・成長と定常化のサイクル

人口・経済の規模↑



【自然信仰】

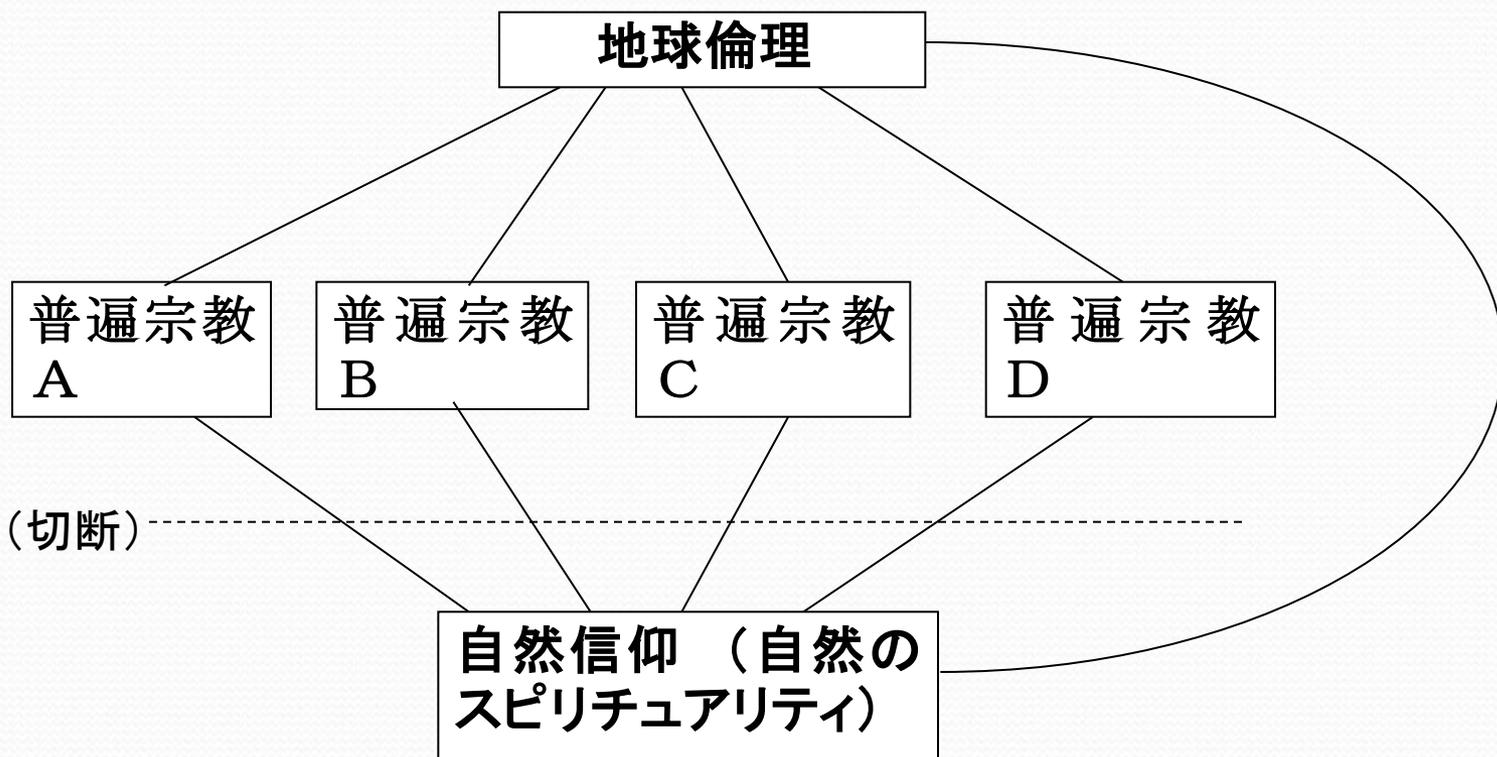
【普遍宗教】

【地球倫理？】

地球倫理の必要性

(地球的公共性／地球的スピリチュアリティ)

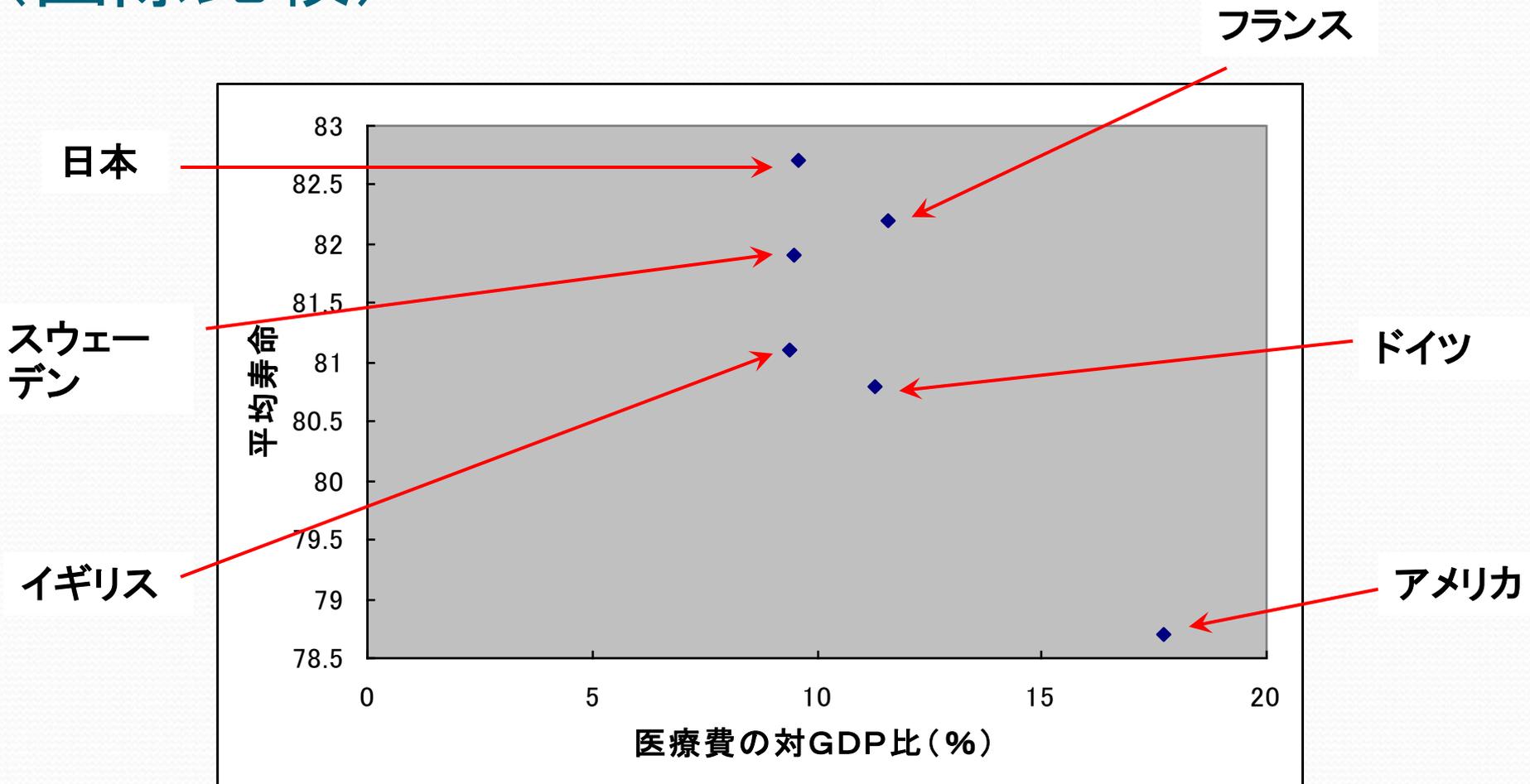
・・・その拠点としての「**鎮守の森**」



高齢化・人口減少社会の フロントランナーとしての日本

- 日本は**高齢化・人口減少社会**の文字通りフロントランナー。
- 相対的に費用対効果の高い形で長寿を実現。自然との親和性や、伝統的な自然信仰が保存。
- 近代西欧文明とアジア、先進国と途上国をつなぐ位置。
- 「鎮守の森」に象徴されるような、コミュニティと一体となった日本の伝統的な自然観の再評価。
- また、そうした**伝統文化**とコミュニティ再生、自然エネルギー等の**現代的課題**をつなぐことの重要性。

(参考) 医療費の対GDP比と平均寿命の関係 (国際比較)



(注) 医療費の対GDP比: 2011年 (日本は2010年)。平均寿命: 2011年。いずれもOECDデータ。

御清聴ありがとうございました

コメント、質問等歓迎します。

hiroi.yoshinori.5u@kyoto-u.ac.jp

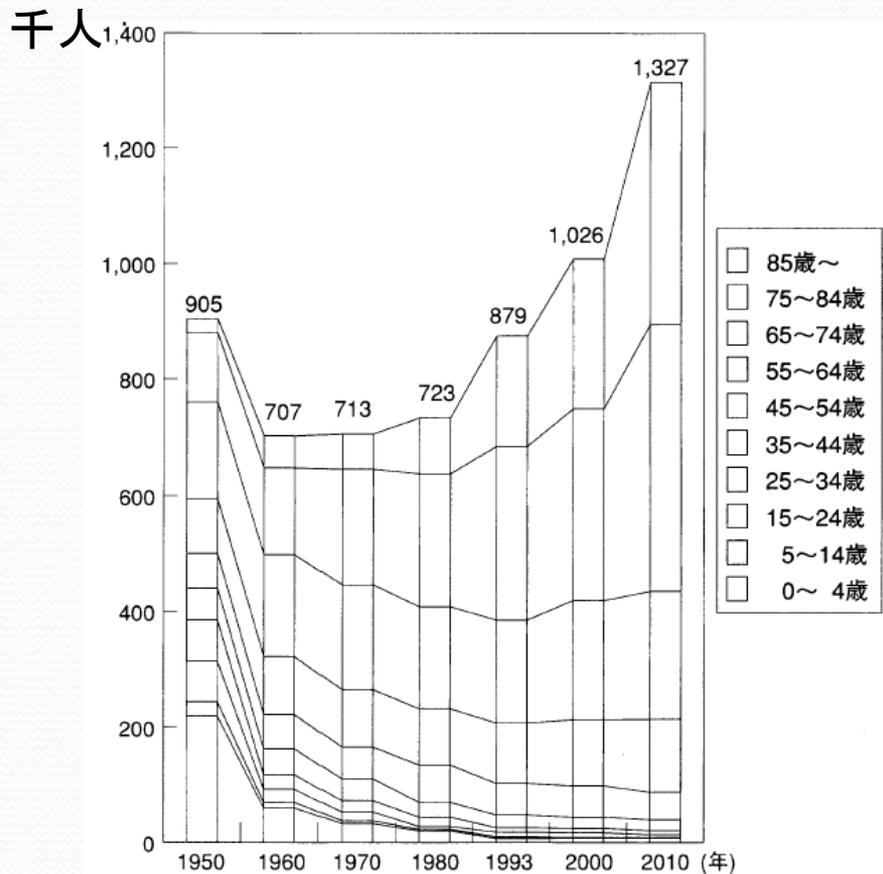
* 関連組織

- ・ 鎮守の森コミュニティ研究所
<http://c-chinju.org/>
- ・ 鎮守の森コミュニティ推進協議会
- ・ 千葉エコ・エネルギー株式会社
<http://www.chiba-eco.co.jp/>

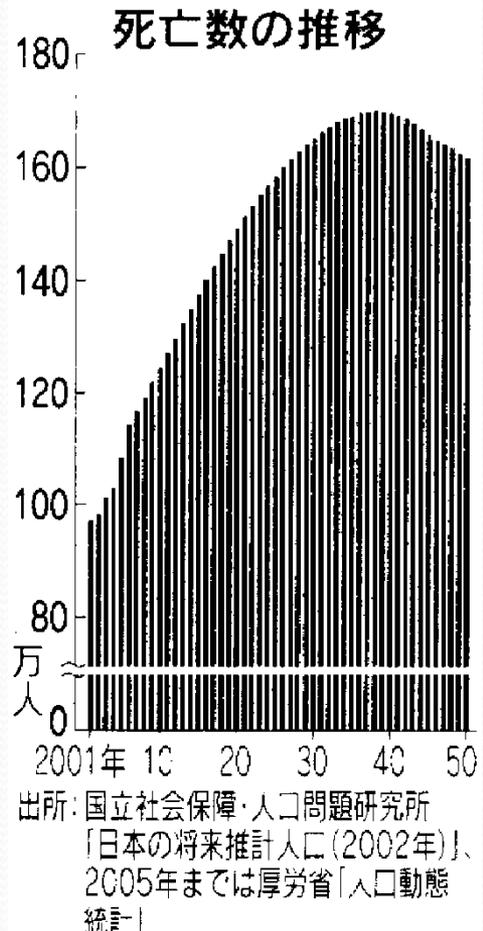
(付論)“鎮守の森ホスピス”
—鎮守の森とターミナルケア・死生観

死亡急増時代

108万人(2005年)→167万人(2039年) [2012年推計]



資料：厚生省「日本の将来推計人口（平成4年9月推計）」



五木寛之「2013年のうらやましい死に方」 (『文芸春秋』2013年7月号)



- 人の死に方や看取りに関する読者投稿の募集。
1999年の第1回目に次いで二度目。
- 「「団塊死」の時代」という時代状況。
- 「「死」はいま「生」よりも存在感を強めている」
- (同12月号:読者投稿の内容を踏まえて)
- 「いま「生き方」と同じように、「逝き方」を現実の問題としてオープンに語り合えるようになってきた気配がある」

死生観の空洞化と再構築

- 戦後日本が脇に置いてきた課題・・・特に高度成長期
- 若い世代の場合
 - ・・・公の場では語られず、アニメや音楽が代替死生観や生きる意味への“飢餓感”
- 団塊世代の高齢化と「老い、死」との直面。
- 経済の成熟化・定常化と死生観
 - ・・・「離陸」の時代から「着陸」の時代へ

日本人の死生観 — その3つの層 —

	特質	死についての理解／イメージ	生と死の関係
A..“原・神道的”な層	「自然のスピリチュアリティ」	「常世」、「根の国」 ・・・具象性	生と死の連続性・ 一体性
B.仏教(・キリスト教)的な層	現世否定と解脱・ 救済への志向	浄土、極楽、涅槃等 (仏教の場合)、永遠 の生命(キリスト教の 場合) ・・・抽象化・理念化	生と死の二極化
C.“唯物論的”な層	“科学的”ないし “近代的”な理解 死	死＝「無」という理解	生＝有 死＝無

「自然のスピリチュアリティ」

- キリスト教や仏教などの高次宗教においては、「スピリチュアリティ」は、理念化・抽象化された概念として考えられる傾向（「永遠の生命」「空」etc）。
- これに対して、日本を含む地球上の各地域・文化圏におけるもっとも基底的な自然観においては、スピリチュアリティは「自然」と一体のものとして考えられてきた。
- このような視点を踏まえながら、ローカルな場所から出発しつつ、個人ーコミュニティー自然をつないでいく活動がこれからの時代の大きな課題。そうした中で「鎮守の森」のもつ大きな意義。

“鎮守の森ホスピス”

- かつての日本
→ 農村共同体の中心に神社やお寺が存在。
・・・スピリチュアリティや自然が一体となったコミュニティ。
- 高度成長期
→ 急速な都市化・経済成長の中で、そうしたコミュニティや自然とのつながりを喪失。
- “鎮守の森ホスピス”・・・鎮守の森や自然が、直接にターミナルケア等を行う場でなくとも、精神的な意味での「たましいの帰っていく場所」として存在することの重要性。

群馬県高崎市：於菊稻荷神社 鎮守の森の向かいにグループホームが隣接



参考文献

- 近藤克則(2005)『健康格差社会』、医学書院。
- ロバート・パットナム(2006)『孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生』、柏書房。
- 広井良典(2001)『定常型社会 新しい「豊かさ」の構想』、岩波新書。
- 同(2001)『死生観を問いなおす』、ちくま新書。
- 同(2013)『人口減少社会という希望』朝日新聞出版。
- 同(2015)『ポスト資本主義 科学・人間・社会の未来』、岩波新書。
- ブルーノ・S・フライ他(2005)『幸福の政治経済学』ダイヤモンド社。
- Joseph E. Stiglitz, Amartya Sen他(2010), *Mismeasuring Our Lives: Why GDP doesn't add up*, The New Press.